

今日のみ言葉 208 「神の生きた言葉によって新たに生まれる」 2012.1.2

あなた方は、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変ることのない生きた言葉によって新たに生まれたのです。 (Iペテロ1の23)

You have been born anew, not of perishable seed but of imperishable, through the living and abiding word of God.

人間を本当に変える力をもつもの、それは人間の言葉や学問、経験、あるいはネットや本などの知識でもない。それは神の言葉である。神は、目には見えないけれどもじっさいに生きて働いておられるお方、その神の永遠性といのちをそのまま内蔵しているのが神の言葉であり、それゆえに人間を根底から変える力を持っている。言い換えれば、新たに生まれさせるほどの力を持っているのである。

私自身が根底から変えられたのは、小学校から大学にいたる学校教育ではなく、友人や周囲のひとたちの経験や言葉でもなかった。それはたしかに、新約聖書に記された短い神の言葉であった。

人間のさまざまな意見、思想、学問などですら、それは「朽ちる種」でしかない。学問が人間の魂を本当に生まれ変わらせる力を持っているのなら、戦前とくらべて現在では、大学・短大の数は、1000を越えるほどに多くなっているのだから、はるかに昔より、生まれ変わっていく人が多くなっているはずである。しかし、じっさいには全くそうでない。

福島原発の大事故もまた、科学技術を学問的に学んだ人たちが偽りの絶対安全論を語り、政治や法律、経済などを学んだ人たちがその偽りの議論を用いて、日本の人々をあざむいてきた結果として生じたのではなかったか。聖書に記されているように、私たちの知識は部分的なものであり、完全なもの(キリスト)が来たときには、部分的なものは廢れる。(Iコリント13の9-10)

パウロ自身、当時のとくに高度な教育を受けて育ったものであったが、なお生まれ変わることはできず、キリストの真理を迫害していく状態にしかならなかったのである。

人間が本当に新たに生まれるには、人間の言葉でなく、「朽ちない種」、すなわち神の言葉が不可欠である。そのような力を持っているゆえに、神の言葉こそ、年をとっていく間にあっても、その魂を新しく生まれさせていくことができる。

「外なる人は衰えても、私たちの内なる人は、日々新たにされていく。」(IIコリント4の16)とされているとおりでである。

年老いていく人間にあっても、たえず新たなものへと変えられていくことが可能なのである。

しかし、記憶力も、判断力も鈍ってくるのにどうしてそのようなことが言えようかと、思う人もいるだろう。

神の言葉によって日々新しくされていくというしるしは、聖書にある、「いつも、いろいろなことについて感謝せよ、絶えず祈れ」という状態により近づいているかどうかでわかる。

私たちが、かつては気にも留めていなかったような、ささやかなこと一手足が動かせること、日々呼吸ができること、見えること、衣食住など、日常の一つ一つを神の愛からのものとして受け取り、苦しいことがあってもそこに必ず神がその苦難を用いてよきへと導かれようとしていると信じることができるなら、そのような魂は新しく造られているあかしとなる。

新しい年を迎えて、私たちも朽ちることのない種である、生ける神の言葉を日々受けて、日々新しくされて1年を歩ませていただきたいと思います。

野草と樹木たら

モミジカラマツ

キンポウゲ科

月山にて

2010. 7. 30



この野草の名前は、モミジカラマツといいます。高さは20~50cm、北海道と、本州の中部から北の高い山にみられるものです。これは、山形県では北寄りにある、標高1984mの月山での撮影です。中央部と右後方の白い部分は、雪渓です。この写真は、7月30日に撮影したのですが、このように、頂上に近いのでなお雪渓が残っているのです。

カラマツソウの仲間にはいくつかありますが、これは、写真でもわかるように、葉が大きなモミジのように分かれているからです。この撮影場所よりも下の地域で黄色のニッコウキスゲが多く見られ、そこにも一部この花が混在していました。

雪と野草の花が同居しているといった光景は、関西の山ではまず見られないものです。8月になってもなお残るということは、相当な積雪があることがわかります。その厳しい寒さと重い雪にも耐えてこの植物たちは芽を出し、短い夏に花を咲かせるのです。

雪が消えていくところに咲くこの純白の花は、あたかも雪の清い白色をそのまま譲り受けたかのような感があります。太古の昔から、こうした厳しい状況にあって花を咲かせ続けてきたこの野草は、繊細な美しさと強靭さを併せ持っており、神の御手によるゆえに途絶えることなく続いてきたのだと思わせるのです。

人間のよごれに染むことなく、清い大気の中、透明な風を受け、厳しい寒さに耐えて咲く白い花々は、あたかも天上の清いコーラスを奏でているかの雰囲気があります。

(写真、文ともT. YOSHIMURA)